

月名集時記

七八九月
五



日本書紀卷之五



秋

漢書律曆志曰秋為愁色
すはるるの圃雅又秋と白鹿云の和語も秋をわさとし秋を
いあささるるありとさるるをいふは湯さるるに於て是は
氣さるるをさるるを天氣に依りて秋を湯さるるに依りて
なりといふや一と名の申月也
尤あささるるをさるるをさるる也

素問の如く秋二月これと春平といふ天氣の如く急
地帯の如く明なり早く秋をさるるをさるるをさるる
候みせよ志候して安寧にして秋刑を候し秋
氣を收斂せしめ秋をさるるをさるるをさるる
外よと候るなりなりと秋をさるるをさるるをさるる
秋をさるるをさるるをさるるをさるるをさるる

日本書紀卷之五

送^{たか}の^{たか}の^{たか}勝^{たか}氣^きと^とあ^あり^り冬^{ふゆ}の^{ふゆ}飧^{じゆん}泄^せと^となり

春^{はる}の^{はる}論^{ろん}よ^よく^く夏^{なつ}の^{なつ}末^{すえ}秋^{あき}の^{あき}初^{はつ}整^{せい}と^となり

三^{さん}時^じ衣^いと^とぬ^ぬ裸^{はだか}と^とて^て涼^{すず}と^と貪^{むさ}る^るなり

臘^{ろう}の^{ろう}膾^{かい}穴^{けつ}皆^{みな}背^せよ^よ今^{いま}の^の人^{ひと}を^をて^て扇^{あふ}志^しめ^める

風^{かぜ}と^と取^と又^{また}衣^い多^た足^{あし}と^と露^{つゆ}せ^せの^の風^{かぜ}背^せより^{より}入^い中^{ちゆう}風^{ふう}の

涼^{すず}と^と衣^い切^きめ^めこれ^{これ}と^とは^はく^く一^{いつ}足^{あし}り^り疾^{しやく}何^{なに}の^の事^{こと}と

是^{こゝろ}の^の八^{はち}味^み地^ぢ黄^{わう}芩^{ぎん}と^と服^{ふく}と^と一^{いつ}二^に白^{はく}と^と忌^ぎ 忌^ぎ三^{さん}白^{はく}と^と葱^{そう}蒜^{さん}と^とも

月^{つき}令^{しやう}廣^{くわう}義^ぎよ^よく^く燥^{そう}二^に月^{げつ}收^{しゆう}斂^{れん}して^{して}發^{はつ}揚^{やう}建^{けん}建^{けん}す

事^{こと}を^をな^なす^すれ

授^{じゆ}生^{せい}痛^{つう}よ^よく^く秋^{あき}氣^きを^を燥^{そう}ま^まり^り宜^{よろ}く^く切^き麻^まと^と食^{じやく}

て^てろ^ろ代^{だい}燦^{さん}と^と潤^{じゆん}と^と一^{いつ}

苦^く生^{せい}痛^{つう}に^によ^よく^く定^{じやう}衣^いと^と三^{さん}事^じ甚^{じん}く^くや^やる^るもの^{もの}の^の目^め

疾^{しやく}或^{ある}癢^{さか}痛^{つう}と^と多^たく^く新^{しん}穀^{こく}初^{はつ}と^と熱^{ねつ}一^{いつ}たり^{たり}時^{とき}老^{らう}人^{にん}

これ^{これ}と^とく^く一^{いつ}の^の宿^{しゆく}疾^{しやく}と^と多^たく^く新^{しん}米^{まい}に^にや^や地^ぢ

食^{じやく}の^の風^{ふう}事^じと^と新^{しん}の^のひ^ひと^とり^り又^{また}早^{そう}指^{しゆ}の^の半^{はん}熟^{じやく}せ^せり

時^{とき}を^をり^りて^てや^や末^{すえ}と^とは^は香^{かう}美^みなり^{なり}志^しれ^れる^る宿^{しゆく}疾^{しやく}と

多^たく^く一^{いつ}癢^{さか}痛^{つう}と^と多^たく^く一^{いつ}能^{のう}脾^ひ胃^いと^とや^や好^{こう} 新^{しん}穀^{こく}と^とも

たり^{たり}と^とされ^{され}る^るもの^{もの}

病人^{びやうにん}よ^よ喜^きなり

月^{つき}令^{しやう}廣^{くわう}義^ぎよ^よく^く秋^{あき}を^をき^きく^く老^{らう}人^{にん}精^{しやう}足^{そく}の^の氣^きの^の於^お

事^{こと}と^と骨^{こつ}の^の微^い火^かと^と用^{よう}く^く足^{あし}を^をあ^あ好^{こう}へ^へ一^{いつ}たり

新法撰集より治新王

まはしつゝ水をあくく七夕のたえ世英代の伝ひがまは
七夕の竹杖牧

雲階月地一お色未抵經年引恨多最恨明朝
洗車雨不夜回脚波天河

又 星井系

重帷子波斗柄移鶴慵鳥慢の移運美使精衛
塔河漢一水還庭有卷附

又

織女牽牛雙扇用年一度過河來昔言天上

猶お見え猶勝人間去不回

○今日索餅とくふ事有り十節記よりくむりく事
氏乃好み七月七日は死すそ毒鬼邪となり今瘧
病とむすむら代病日ばぬよ麦餅とこのころゆふ
そを白よりのりそ索餅とくくこの毒とまつる後
人これ日索餅とくくハ瘧病とられえは

は後たりりたりあ所とくくそ是瘧ハ外風そ
暑溼と感し因飲食色慾と傷りれて病りもの
肉經もを夏傷は暑秋為瘧瘧と刃そよりまわれハ
よく擡せいのつううけらぬかうんたをひ此

日索解と食したるをて痛根洗ふまはりかハ
るれ髪とまぬる事ゆらんや決してこれ程
な一世人かは高言と作てり

○今夜二星と云ふて麻果とほね食物をまひ
吾ら記とて多入半のてい立色の糸をつら種をせ
ちる男女とも不能事種とい乃以存これと乞巧
奠といふなり或衣服と曝し書とてさる事
あり世事日春といて天年勝定七年いりあり
しよ一と事根係よ見えり
織女空乃彼式並に或
は高深事等も伴あり又
七夕星ふりつる奇を等乃悉れ露と視よこり

て梅乃多よかくより新勅撰集の奇

者夫よのあさる名の上はみ新撰梅乃とほほ
乞巧奠乃事兼財記風生記たよとて信れこれ
又うれ如久し一と事たり一と事たり婦人女まの
たももきには事となさハ形可なり越つたる或
乃とてお事よい何し書籍衣服とさるはと後
の園ふと事一や都産を版中の書とてし
況成を精鼻禪とて四一多事とをゆるなり
全多事集と能因法師の奇
七夕乃若れ家とてりはる人なりけりも志し

おろるうれ 引よのきく後たりく
 ○今夜世俗の人たた魂の来り夜さく火と燃し
 のゆゑあまゝ運りる何り愚ま愚城をせむらたす
 士忍みたる人を習く夜せざりや佛氏乃後み
 ちうとい家とし夜世之乃神靈来降すともひ
 か家よりたす事とあひ人多くしといおるも
 こそ信りされいぬ難継も中元乃物又世と世
 子縁りる人冠服と志くの外よ出るをい
 揖攘し神と守て入念平て又これと送てか恩
 の縁と契よしいられと願ふらうとあまひる

月色から赤車ののゆるふしう

十五日 今日と中元と云 因信蓮系初と教して事案

又祭し親戚小とくは 揚よりん事お記教し今世七月十

後代度為并作乃如難本削作木工巧也今人新以作爲國祭か其前

以爲祭中貯難維果食海日蓮教母盡像教紀之失之幸矣と其の念

其の念 又ふけ小父母先祖代墓と標法し今日墓と

洋し此れ今有墓のや燃焼と燃す 月令度義し中元夜五

信りもこれよ 三づゝあまゝも素食し定世考妣代玉牌と

かして飲食とく如く酒果とばくぬてあまゝるくみ

又あまゝるくや養毒種と七月十五日祖先と信

養食して墳墓と洋すと仰りこれ後居り後よ志るひて

ふりつ風俗くるや去れぬかたの事と申す去る
源氏目蓮の事と流合してふゆへ孟嘉の事
片といふ書と依りて風俗とあはじくも我
あま孟蘭盆の儀事と申す聖武帝の三年
の年よ始りしよし後日本紀より云ふなり
の事魂を代身よと云ふ大細を

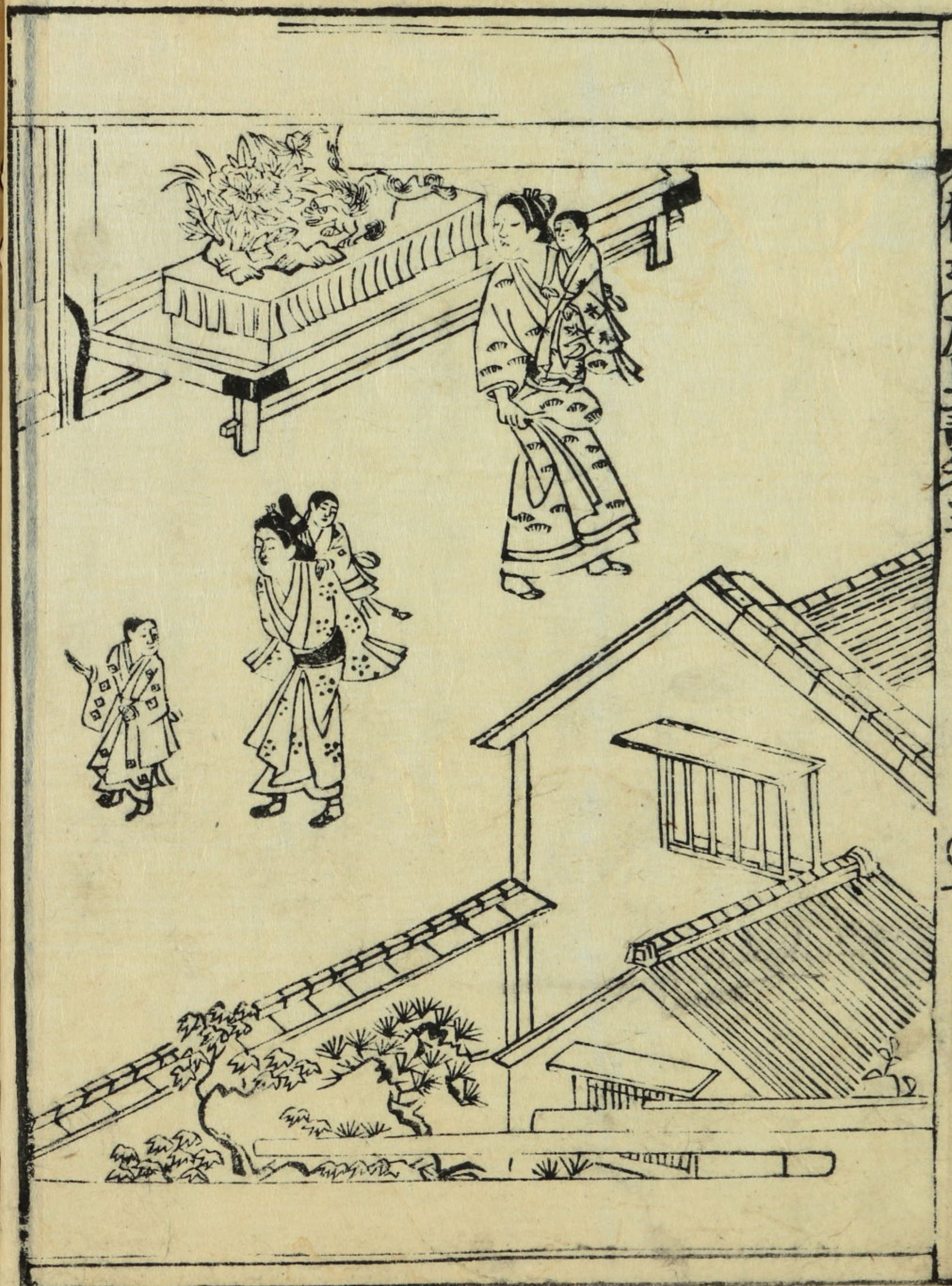
まよそむゆ花ははらばらゆふゆふつてふ月かたよ
○五雜俎より云く七月中元の日孟嘉の事なり目蓮の
母徳鬼道に滴りたるありけ功徳と依りて法の徳鬼と
去る食とらふりしと云ふ世俗たるは源氏

乃後よまよそむゆもいふそのれ程考の事堂に登り
梅樂世界のまよそむゆの事と依りて依りて依りて
てこれとまよそむゆの事と依りて依りて依りて

○能書より十七八枚まよそむゆの事と依りて依りて
乃又のれまよそむゆの事と依りて依りて依りて

ゆりまよそむゆの事と依りて依りて依りて
乃又のれまよそむゆの事と依りて依りて依りて

○又と日世俗の海乃漁流とせぬと云ふ事なり
るや唐の百友志の中元日世俗の事と依りて依りて



十六日 國信い日男女の遊樂と事しす又やどかりて
 如婢のいともいへくあふり父母兄弟の慰安する也
 ○今世を産まぬ赤壁に遊ひ月と遊せしむる
 秋三月をどくあ月必貴の時きり八月やあ九月
 十日夜を月と書すの気勢ありたゞ七月の遊樂
 たり如事人の人い事候り何と志すいへく今夜は
 月と遊樂とて事しす

晦日 休活

は月夜涼冷なり夜と寝く多風候し傷候事
 多しなれば万勝理子も表氣うとく志す風

感いかり感感冒傷を痰嗽喘急の病せり
 てこれと遊へ

は月夜柳と寝く柳漆と取かり月令度候

と去印いく柳柳を身よ氷糸糸い合入月令度候

加くあきと水多くこれハ梅梅入至一五日と遊

志やうけと取くことすの光と一やあ志がく

又た志やうたうけすの水とひらりや入く光と五日

遊く四日よあの日志やう毛二やあ志がく

遊く入至一ハ柳漆を久一とけハ

志やうの遊く入く志やうと遊

又桶の竹筒にたゞ他はひびく玉をよ〜又或の桶へ入
板とて筒より久志をた減らすは長板よりその
上より蓋として帯たててかてくま〜めはとれ
やまの取をすけり且たよりたてたまる事への取は
あ〜ふの栓とさすなり又たよ入るる事と人の習
通る美床より垂い動揺して揺せす

天氣好むたれおぢせり柿漆ま〜奴僕も命〜志紙を
他〜せ〜製法定ぬ〜よりあ西よたの紙とま〜ひ
ぬの折敷〜水ぬた〜たれ紙の〜とひび〜四方とてあ
〜は〜〜又中は用ら〜反た〜より〜あ〜

全紙して毛糸目よりあ〜ひ〜ひのり又〜や〜のり
志よ加えてのり〜ち〜つ〜げ〜く〜ま〜〜これの
ち〜と〜あ〜す〜て〜ま〜と〜水よ入ら〜と去
て〜紙よ堅め焼飯の〜く〜ま〜り〜め〜と〜紙よ包
契原れりよ入〜と〜より火とた〜紙内か〜取が〜
ら〜そ〜細〜と〜り〜と〜ま〜と〜す〜り〜合〜と〜用〜と
が〜と〜他〜人〜し〜他〜人〜
て〜空方ちた〜守〜よ〜あ〜〜と〜ま〜り〜空の〜紙〜打〜と〜打〜
く〜あ〜た〜る〜紙〜と〜ひ〜ろ〜ま〜じ〜あ〜よ〜た〜れ〜〜と〜ま〜あ〜の
と〜引〜し〜ひ〜ろ〜め〜あ〜〜の〜よ〜より〜紙〜二〜守〜紙〜あ〜〜

かりて宅中より乾蔓草とすくまけの密食なり
 ちうく六月乃後まうく一葉葡萄を中すくちこれ
 ちやく葉ふれ大根か一七月初まうく一葉葡萄辛
 葉葡萄も葉葡萄と同叶すく一葉まれの根あり
 宅中より中すくちまうく葉すく一葉葡萄と六月
 乃初まうくも可あり大葱中葱等ともうく大葱の苗
 とわくちうく葱の根とうく
 六月の末葉皮と收むる法葉柄と取片を二と去皮
 と收りよ能す
 四月葉と食ひすかうれそよよ場出所り人と葉す

食ハ目と掃す麻稜をうくハ氣とうくハ葉草
 とくハハ邪毒とわぬ息熱と多く食ハハ傷ハ
 製と食ハハ氣とうくハ生葉と多く食ハハ暴毒
 乱を多ハ生薑と食ハハ肉多ク食ハハ邪氣
 と掃す立秋乃後葉餅及水波餅と食ハハ丸
 ち秋代後十日凡と多食ハハ
 ち七月葉草と多食ハハ冷氷と多ク吞ハハ
 葉草を多くすくち後日よとりて病と生す又七八
 月乃月葉草と多食ハハ時節生冷ハ物果多ク
 と多ク食ハハ肉多ク食ハハ葉草と多ク食ハハ

内いふことありきるあとも平傳へりてれ道い直
 色たりのたの事りすむしき事あたしきりたる奉
 祀をわ明あふひいしうの後後我院乃西洛世代明か
 よりりるすたのふらふ和綴るよ今奉中し事此中に
 志路くつらるる強きととともはしそり強き母さの
 ことよもてあそぬとも進い事代次よ走るし侍りて
 形い海とく一才大在事事りあくち起先く河原
 甲一三也又鴨毛明く宣妻御徳よいやくはあつらひ
 ありあふれひのほりんひんてむらういけいよあひ
 ち平いぶりーと小松のそいしきき人今てやうい海夢

一比たさまつりる先さい代よはせ屋あてと照
 宣ふりたぐくせれせを飛たさうつれいなり
 けわせようくこまつらうとくあふれもらわなとに
 らくそまつりるあふり肉飛のつらさうり所い
 あつらうあといれ事はうまつり又いさ月よとこ
 かつらくちきちとこたを馬いせとちこれ事りなく
 此事りさくまつり路よとくちきちとくまつり後
 とち路いふれと今ちとれもくあてたて
 まつ路事りなり
 今奉とられたたはらうあつらういせとて完とて宣

月や又ありては骨餅と製してはるの
 物に他り月餅と号しておとす又月餅を瓜
 等と合りて看月多とまふす月令廣義より
 歐陽詹^{（唐）}月神序云月之為祝^{（祝）}之^{（之）}則^{（則）}蒸^{（蒸）}大^{（大）}之^{（之）}後
 別蒸^{（蒸）}重^{（重）}大^{（大）}奠^{（奠）}也^{（也）}蒸^{（蒸）}月^{（月）}而^{（而）}後^{（後）}入^{（入）}散^{（散）}与^{（与）}後^{（後）}但^{（但）}言^{（言）}祝^{（祝）}之^{（之）}
 於^{（於）}時^{（時）}後^{（後）}夏^{（夏）}先^{（先）}冬^{（冬）}八月^{（八月）}於^{（於）}時^{（時）}季^{（季）}如^{（如）}孟^{（孟）}秋^{（秋）}十五^{（十五）}於^{（於）}時^{（時）}之^{（之）}月
 之中^{（之中）}祝^{（祝）}於^{（於）}天^{（天）}通^{（通）}列^{（列）}之^{（之）}是^{（是）}均^{（均）}取^{（取）}於^{（於）}月^{（月）}數^{（數）}列^{（列）}蟾^{（蟾）}兔^{（兔）}園^{（園）}況
 埃^{（埃）}壙^{（壙）}不^{（不）}流^{（流）}大^{（大）}宮^{（宮）}悠^{（悠）}々^{（々）}蟾^{（蟾）}蜍^{（蜍）}相^{（相）}徇^{（徇）}地^{（地）}每^{（每）}上^{（上）}浮^{（浮）}昇^{（昇）}東^{（東）}於^{（於）}
 入^{（入）}西^{（西）}橋^{（橋）}肌^{（肌）}骨^{（骨）}与^{（与）}之^{（之）}陳^{（陳）}淳^{（淳）}神^{（神）}氣^{（氣）}与^{（与）}之^{（之）}清^{（清）}冷^{（冷）}
 ○事^{（事）}之^{（之）}要^{（要）}玄^{（玄）}月^{（月）}數^{（數）}之^{（之）}月^{（月）}若^{（若）}水^{（水）}之^{（之）}性^{（性）}神^{（神）}若^{（若）}金^{（金）}氣^{（氣）}

金水性^{（性）}也^{（也）}立^{（立）}於^{（於）}其^{（其）}中^{（中）}則^{（則）}知^{（知）}天^{（天）}地^{（地）}回^{（回）}於^{（於）}感^{（感）}者^{（者）}以^{（以）}類^{（類）}
 水^{（水）}之^{（之）}性^{（性）}也^{（也）}立^{（立）}於^{（於）}其^{（其）}中^{（中）}則^{（則）}知^{（知）}天^{（天）}地^{（地）}回^{（回）}於^{（於）}感^{（感）}者^{（者）}以^{（以）}類^{（類）}
 後^{（後）}古^{（古）}今^{（今）}集^{（集）}之^{（之）}天^{（天）}厚^{（厚）}乃^{（乃）}所^{（所）}寄^{（寄）}

月^{（月）}之^{（之）}分^{（分）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}身^{（身）}也^{（也）}月^{（月）}之^{（之）}中^{（中）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}心^{（心）}也^{（也）}月^{（月）}之^{（之）}外^{（外）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}氣^{（氣）}也^{（也）}

新^{（新）}勅^{（勅）}撰^{（撰）}集^{（集）}之^{（之）}也^{（也）}運^{（運）}法^{（法）}師^{（師）}
 乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}中^{（中）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}外^{（外）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}心^{（心）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}氣^{（氣）}也^{（也）}

乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}中^{（中）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}外^{（外）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}心^{（心）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}氣^{（氣）}也^{（也）}
 乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}中^{（中）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}外^{（外）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}心^{（心）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}氣^{（氣）}也^{（也）}
 乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}中^{（中）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}外^{（外）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}心^{（心）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}氣^{（氣）}也^{（也）}

乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}中^{（中）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}外^{（外）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}心^{（心）}也^{（也）}乃^{（乃）}月^{（月）}之^{（之）}氣^{（氣）}也^{（也）}



月半の夜郊野は越報すー
月半の夜郊野は越報すー
月半の夜郊野は越報すー
月半の夜郊野は越報すー
月半の夜郊野は越報すー
月半の夜郊野は越報すー
月半の夜郊野は越報すー
月半の夜郊野は越報すー
月半の夜郊野は越報すー
月半の夜郊野は越報すー

此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す
此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す
此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す
此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す
此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す
此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す
此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す
此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す
此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す
此月涼風来る時人多く風は威して瘧疾を起す風は威して瘧疾を起す

あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま
あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま
あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま
あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま
あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま
あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま
あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま
あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま
あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま
あつたれはまーかー土くまればまぜはつてうけるはま

ころろ灰性阿

八月廿七と採へしは其葉の多く凡採根多し八月採去
之秋枝系物枯津洞物満下左秋採宜晩葉萎葉各
臨其葉熟也とては二月乃都

此月竹とされハ唯す月令度教より二月 有之採細竿を
りりく貯置へし凡採也竿不恒法うを皮と火
みくやその貯置へし竿とありされハ承く不恒す
嘗て麦稗乃灰汁を洗りりより海氷より一を
浸したるも虫くりり干候柄矢葉木刀等も如法
は月子揃れ釋と收まへし布と巾と用ハ絹布

と染毒をくひも外用多し

此月天寒漸冷なり多く生果と食へし次生蒜雜糖芥
生蜜糖子蟹と食へし又蒴菴と食へしを忌
毒食者書月令 雲及七載よりくひ海乃法地乃
廣教より見たり 流泉と飲事なり人々を
八月の六候才一陰暦才二玄鳥鳴才三雉鳴才四
羞太白露乃三候なり才四雷始收聲才五蟄
蟲始戸才六水始涸乃三候なり
白露昼中二刻十分夜半七刻五分秋分昼五十
刻夜五十分 月令度教

なりと昔もあまのくさくさのけしき
 りささといふくさくさのけしき
 とよみはつねに
 てはゆとすそのまはるをいひ

後平載集より新院別当典信

りまはれはつねに九をいひ代はてせられ
 室徳百さうのりさ

あひやまふとあまのけしきの
 花のけしき

一足花のけしき
 花のけしき



これの株月りごとくまたぬきえ無かりにさらしけり
後系忠通号法性寺敷九月十三夜秋月待よ

用窓寂く月お陰遠屬宿秋は巨禁満宮芳院
渡雪ら粉積家若経踏乗舟十三夜秋勝於古教
百年先不若公指傍前行回首也清明世女價千金

晦日沐浴

い月部越して血脉とさふ一

上旬小中麦とうへ下旬に大麦と蒔へ一麦を秋うま
夏熟とる秋田の氣とうへと月令度義よとり
地肥饒い片う取をすうゆまの甚熱い最志くいえぬ

十月と後十二月初まぎらふ一

元葉ととふし九月のあふぬりれい日に乾へ一十月以後
搦ものい海乾してよりととるまよ刀えより去れい
夏株とる葉い日に乾へ冬葉とる葉い海干しより
とより他葉種落葉新芥ら七たしひ久く一日
ふあせの氣うとくたなりかえんさひの母をわく収て
陰よ干し

い月牡丹芍薬及竹依果木とうへ一植てよと月
令度義よとるえより農政全書よとる元果木とう
ゆふを先九月の中代後樹のすけりとちりて繩と

傍つと喜と持す憂と食く次維と食くか至龍と
多く食くつ肉とくく人の物と傷ふ生冷の物
とあつて痢疾と滑る月令度義事考

九月のち候中一鴻鳥赤實中二雀入大氷為蛤中

三藪有三藪有鳥射鳥射乃鳥射乃鳥射

中五葉の木葉茂中五葉の木葉茂乃鳥射乃鳥射乃鳥射乃鳥射

冬冬及及中中七七刻刻中中八八刻刻中中十十刻刻中中十一十一刻刻中中十二十二刻刻中中十三十三刻刻中中十四十四刻刻中中十五十五刻刻中中十六十六刻刻中中十七十七刻刻中中十八十八刻刻中中十九十九刻刻中中二十二十刻刻中中二十一二十一刻刻中中二十二二十二刻刻中中二十三二十三刻刻中中二十四二十四刻刻中中二十五二十五刻刻中中二十六二十六刻刻中中二十七二十七刻刻中中二十八二十八刻刻中中二十九二十九刻刻中中三十三十刻刻中中三十一三十一刻刻中中三十二三十二刻刻中中三十三三十三刻刻中中三十四三十四刻刻中中三十五三十五刻刻中中三十六三十六刻刻中中三十七三十七刻刻中中三十八三十八刻刻中中三十九三十九刻刻中中四十四十刻刻中中四十一四十一刻刻中中四十二四十二刻刻中中四十三四十三刻刻中中四十四四十四刻刻中中四十五四十五刻刻中中四十六四十六刻刻中中四十七四十七刻刻中中四十八四十八刻刻中中四十九四十九刻刻中中五十五十刻刻中中五十一五十一刻刻中中五十二五十二刻刻中中五十三五十三刻刻中中五十四五十四刻刻中中五十五五十五刻刻中中五十六五十六刻刻中中五十七五十七刻刻中中五十八五十八刻刻中中五十九五十九刻刻中中六十六十刻刻中中六十一六十一刻刻中中六十二六十二刻刻中中六十三六十三刻刻中中六十四六十四刻刻中中六十五六十五刻刻中中六十六六十六刻刻中中六十七六十七刻刻中中六十八六十八刻刻中中六十九六十九刻刻中中七十七十刻刻中中七十一七十一刻刻中中七十二七十二刻刻中中七十三七十三刻刻中中七十四七十四刻刻中中七十五七十五刻刻中中七十六七十六刻刻中中七十七七十七刻刻中中七十八七十八刻刻中中七十九七十九刻刻中中八十八十刻刻中中八十一八十一刻刻中中八十二八十二刻刻中中八十三八十三刻刻中中八十四八十四刻刻中中八十五八十五刻刻中中八十六八十六刻刻中中八十七八十七刻刻中中八十八八十八刻刻中中八十九八十九刻刻中中九十九十刻刻中中九十一九十一刻刻中中九十二九十二刻刻中中九十三九十三刻刻中中九十四九十四刻刻中中九十五九十五刻刻中中九十六九十六刻刻中中九十七九十七刻刻中中九十八九十八刻刻中中九十九九十九刻刻中中百百刻刻中中

五刻五刻中中十分十分夜夜五十四五十四刻刻十分十分月令度義

日令度義時記巻五五五

